



平成 28 年 5 月 11 日

各 位

会 社 名 国際計測器株式会社
代表者名 代表取締役社長 松本 繁
(J A S D A Q ・ コード 7722)
問合せ先 取締役総務部長 松本 博司
電話番号 042-371-4211

営業外費用及び特別損失の計上、業績予想の修正、 並びに個別業績見込みの前期実績との差異に関するお知らせ

平成 28 年 3 月期決算において営業外費用及び特別損失を計上する見込みとなるとともに、平成 27 年 5 月 15 日に公表いたしました、平成 28 年 3 月期通期の連結業績予想数値を修正することとなりました。また、個別業績予想におきましては開示しておりませんでした。前事業年度の実績値と比較して差異が生じる見込みとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 営業外費用及び特別損失の計上について

(1) 関係会社貸倒引当金繰入額・関係会社株式評価損（個別・営業外費用）

材料試験機を製造・販売している当社の連結子会社である東伸工業株式会社の財政状態及び経営成績を勘案した結果、「金融商品に関する会計基準」に基づき、同社への貸付金に対する関係会社貸倒引当金繰入額 400 百万円、当社が保有する同社株式について関係会社株式評価損 148 百万円を営業外費用に計上する見込みであります。

なお、関係会社貸倒引当金繰入額及び関係会社株式評価損は、個別財務諸表のみで計上されるものであり、連結上では相殺消去されるため、連結損益への影響はありません。

(2) 減損損失（連結・特別損失）

当社の連結子会社である東伸工業株式会社の固定資産について、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、将来の回収可能性を検討した結果、帳簿価額を回収可能価額まで減損処理することとし、減損損失 22 百万円を計上する見込みであります。

2. 平成 28 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正

(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 16,500	百万円 3,400	百万円 3,400	百万円 1,950	円銭 139.13
今回発表予想 (B)	14,920	2,384	2,253	1,315	93.82
増減額 (B) - (A)	△1,580	△1,016	△1,147	△635	
増減率 (%)	△9.6	△29.9	△33.7	△32.6	
(ご参考)前期実績 (平成 27 年 3 月期)	16,747	3,421	3,499	1,866	133.18

(修正の理由)

売上高につきましては、生産ライン用タイヤ関連試験機の出荷が、東南アジア向けについては増加しているものの、中国の中堅タイヤメーカー向けについては大幅に減少しているため、当初の予想に対し減収となる見込みであります。

利益面につきましては、減収及び当初の見込みを大きく上回る原価が発生した材料試験機の大規模案件を出荷したことなどにより売上総利益が減少する見込みであることや、為替差益から為替差損に転じる見込みであることなどにより、当初の予想を下回る見込みであります。

3. 平成 28 年 3 月期通期個別業績見込みと前期実績値との差異

(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回実績 (A)	百万円 13,880	百万円 3,124	百万円 3,517	百万円 2,014	円銭 143.71
今回実績見込み (B)	10,638	2,022	1,494	819	58.44
増減額 (B) - (A)	△3,242	△1,102	△2,023	△1,195	
増減率 (%)	△23.4	△35.3	△57.5	△59.3	

(差異の理由)

売上高につきましては、連結と同様の理由により、当初の予想に対し減収となる見込みであります。

利益面につきましては、減収などにより売上総利益が減少していることや、前述の通り、関係会社貸倒引当金繰入額及び関係会社株式評価損を計上する見込みであることから、当初の予想を下回る見込みであります。

(注) 上記の業績予想数値は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、今後様々な要因により予想数値とは異なる可能性があります。

以 上